

令和7年度学校経営の改革方針

学 校 名	津市立橋北中学校	校長名	奥田 幸伸
児童・生徒数	523名	20学級（内、特別支援学級5）	教職員数56名

I めざす学校像（学校教育目標）

豊かななかかわりの中で、仲間とともに学び合う生徒の育成

〈めざす学校像〉

笑顔にあふれる生き生きとした学校

未来を創造する主体性を育む学校

家庭・地域とともに歩む学校

〈めざす生徒像〉

気づき、考え、行動する生徒

互いの人権を尊重する生徒

たくましく粘り強くやり抜く生徒

II 現状と課題

本校の生徒は、比較的落ち着いた態度で学校生活を送っており、学習や自主的な活動に積極的かつ粘り強く取り組み、学力の向上がみられる。部活動においても一生懸命打ち込む姿勢があり、成果を上げている。さらに、生徒会を中心に、青少年赤十字活動（JRC）の基本理念である「気づき」「考え」「行動する」を態度目標としながら、学校生活を見直し、あいさつ運動やボランティア活動に取り組んでいる。

「学校が楽しい」「友達関係に満足している」と感じている生徒が多い一方で、心身の不調や不適応を訴える生徒の実態もある。また、「自分には、よいところある」と思うことができない生徒が多い実態もあり、生徒の自尊感情や自己有用感、プレッシャーをはねのけるたくましさや粘り強さなど非認知能力の育成が必要である。

こうした課題解決のために、今後も、生徒の小さな成果や変化を見落とさずに価値づけて勇気づけることで、将来の夢や目標を持たせ、生徒の力を引き出すことに注力するとともに、人との信頼関係を基軸に、仲間と協力して取組を進めることや体験的な活動の場を設定して、これら非認知能力を育てることが肝要である。また、互いの考えを認め合う、「わからない」が言える仲間づくりを主眼においた「学び合い」の学習の推進により、仲間のためになることを実感したり、地域や青少年赤十字等に活動へ主体的に参加し、社会貢献することの喜びを感じたりすることで、自己有用感を向上させるとともに、生徒エージェンシの育成につなげていきたい。

III 重点目標

- 1 主体的・対話的に深く学ぶ姿勢の確立と授業改善の推進
- 2 忍耐強い精神を持って、目標を掲げ、夢に向かう姿勢の確立
- 3 心にゆとりをもって、周囲と笑顔で接する姿勢の確立と生徒指導の充実
- 4 展望を持ってたくましく未来を創造していく姿勢の確立と進路指導の充実
- 5 新たな価値を創造する力、対立やジレンマに折り合いをつける力、責任ある行動をとる力の育成
- 6 家庭・地域との緊密な連携により、安定した生活をする姿勢の確立
- 7 社会・地域の一員としてグローバルな視野と発信力を備えた生徒の育成

IV 具体的な行動計画

- 1 生徒が主体となって「学び合う」授業づくり
- 2 確かな学力と社会で生きる力を身につける「探究的な学習」の展開
- 3 人権教育の推進と充実、生徒会によるJRC活動、ボランティア活動の展開
- 4 実践力を育てる道徳教育と特別支援教育の充実、部活動の充実
- 5 学校運営協議会のしくみを生かした地域とともにある学校づくり、PTA、橋北地区青少年育成指導委員会等及び三重大学教育学部との連携
- 6 教職員が生徒と向き合える時間の確保と働きやすい環境づくり
（具体的な教職員の勤務時間縮減に向けた取組）
 - ① My 定時退校日を月2日以上設定することにより職員が自らの働き方を見直す。
 - ② 一人あたりの休暇取得日数を前年度比で年2日増やす。
 - ③ 会議の効率的な運営に努め、60分以内に終了した会議の割合増を目指す。
 - ④ 組織力を生かした取組をすすめて、月平均時間外労働の前年度比減を目指す。
 - ⑤ 部活動休養日を予定どおり設定できた部活動の割合100%を目指す。

